十二疊ばかりの部屋に座布團や火鉢がならげてある。
新らたな學生が二三人來てゐた。
風呂に這入つた。
加藤一夫がやつて來た。
新居は散髮して色男になつて來た。
鯛めしでもないまつとうまい箱入のめしを其處で食つた。
名刺を貰つたり書いたり新吉はした。
それから會場へ行つた。
午後六時から初まるのだ。
高商の主催者の學生は今夜の演說會の模樣で、退校されるかも知れんと言つてゐた。
新吉は題丈を考へついてゐた。
『シヤクソン氏の顚癇とアインシュタインの細君』に就いて、
青年會館には夜學もやつてゐるらしかつた。